

ジャズ喫茶の歴史

~16~

結局「ナゴヤホットクラブ」は、およそ三年間続き、昭和二十九年十二月、第二十八回コンサートを終えて解散した。僕が名古屋を離れることになったためだが、内容的には中途のシリーズもあつたりして申し訳ない気分だつた。

それにしても、卒業試験、インターンと続いた時期に、かなりのエネルギーを必要とするこうしたクラブ活動を、ともかくも継続できてとても幸せだった。僕らのつくった、おそらく戦後名古屋で最初のジャズ愛好団体が、この地方のジャズ普及に貢献したなんていううめばれば、これっぽっちもないどころか、むしろ僕個人がここで得たものは、今日にも続く貴重なものだった。

つまり狭い世界にとどまりがちな医学生では考えられないような広い範囲の社会人の

時だ。サクスを抱えた黒人

が飛びつきり人並みはずれて目していた男だった。その

彦だった。

か。

が、以前からジャズへの情熱

の少年こそ、後に世界的打楽器者となる十八歳の富樫雅彦だった。

か。

が、以前からジャズへの情熱

の少年こそ、後に世界的打楽器者となる十八歳の富樫雅彦だった。

か。

が、以前からジャズへの情熱

の少年こそ、後に世界的打楽器者となる十八歳の富樫雅彦だった。

名古屋にもジャズ喫茶店がオーブン

陶酔ぶりが、ただこ
とではなかったから
だ。

「名古屋市内の桜
山でカレライスの
店を開いたばかりな
らんど、東京近
く、おそろく戦後名古屋で最
初のジャズ愛好団体が、この
地方のジャズ普及に貢献した
なんていううめばれば、これ
っぽっちもないどころか、む
しろ僕個人がここで得たもの
は、今日にも続く貴重なもの
だった。

だが僕にとつてもう一つ生
涯忘れられないのが、一人の



開店当初のジャズ喫茶「コンボ」
左から3人目が久野史郎さん

なく彼は栄の「のんき横町」
に移って新しい店をもつた。
これが名古屋で初めてのジャ
ズ喫茶「コンボ」の誕生で、
今から三十年以上も前のこと
だ。

そこは五つばかりのテーブ
ルと小さなカウンターという
規模だったが、壁にはマスタ
ー久野ちゃん好み本物で
あるのを物語る垂蓮(すいぜん
心)のLPがぐるりと飾りつ
けられて、いかにもジャズを
聴くにふさわしい雰囲気にな
まっていた。客は若いサラリ
ーマンといくらかの学生たち
(もちろん僕もその一人)、
それに目立ったのがアメリカ
兵たちだった。なぜか好んで
ポートワインを飲んでいた黒
人たちの中にはステッキ片手
のいきな野郎もいたっけな
あ。

そんなある時、「コンボ」
の二階に何となく居ついてし
まったフーン少年がいた。
何でも東京から逃げて来たら
しいという暗い表情をしたそ
の少年こそ、後に世界的打楽
器者となる十八歳の富樫雅
彦だった。

(内田 修)